

●第24回通常総会出席者21名(委任状提出者19名)で熱心な議論が進む 昨年の23回は里山農園で開催しました。新緑がまぶしく自然の生命が力強く感じられる素晴らしい会場だったのですが、遠路ということもあって、いささか不人気であったようです。そこで、24回目の今年は京田辺市中央公民館をいち早く借用しましたが、出席者は思うようには増加しませんでした。今年の総会案内のはがきはパソコンクラブをご指導いただいている白木さんが自主的に事務局の仕事は大変なので案内状と招集状は私が行いましょうと提案くださいました。これまで事務局の仕事がたいへんなのでお手伝いをいたしましょう1か月前に提案くださったのです。このような申し出は20数年の歴史の中で唯一初めてでした。大変うれしかったです。2017年度は国交省への報告書、京都府への報告書、夏原グラントへの報告書に加えて里山の会の総会議案書、そして会誌44号の編集が全部かぶさって事務処理がとても大変でした。報告書は完璧に仕上げなければ手直しが連続します。加えて成果物をきちんと取り揃えまとめ上げることも大仕事です。2月から準備を行いました。文章化する前の事前準備に時間がかかります。作りだせば簡単なのですが、手につける前の資料収集、説明写真と其の説明文まで組み立てなどに手が回らないのが現状です、思うように出来上がりません。そして期日が迫ってきます。心が重くて滅入っていました。総会などそんなに力を入れなくても何とかなるだろうと腹を決めて開き直っていました。この時、手伝いましょうかと手を差し伸べていただきました。この時こんなことがあるのかとびっくり仰天、即座にお願いしますと返事しました。大変ありがたかったです。報告書や議案書それぞれ違った立場から作り上げなければなりません、集中していると頭が回らなくなります。頭の切り替えをして視点を変えるなど工夫をします。しかしこれまでのようにうまく切り替えができなくなりました。相当苦しかったです。そこでの「助け舟」ありがたかったです。大変お世話になりました。ありがとうございました。

● 総会では一番大きな課題 が会員減少という問題です。最高会員は260名を数えていました。3月末では会費納入者は140名と大きく減少しました。この現状が続くと里山の会の余命は数年で命が尽きるかもしれないと危機感をもって活動報告の最初に提起しました。そして会員減少と併せて収入の確保が会活動の決定的課題とも伝えました。加えて当面の課題に魚とり会の実施回数が多いから減少すべきとの意見があり、準備不足や体制不十分さがあり安全面で不安があると指摘して、回数を減らせばそれを補えるといった強烈な意見が繰り返されました。続いてマラソン大会の時給500円問題について異議が出され、議案書から外して廃棄処分という意見が強烈に何回も強調されました。質疑の時間のほとんどがこの発言をめぐるものでした。事務局会議。理事会と回を重ねて積み上げたものです。最初に提起した「会員減少」や「収入アップ」への課題については全く議論されませんでした。里山の会が直面している課題への取り組みはまるで無関係の様子でした。広く意見を求めていましたが、残念な進行になってしまいました。マラソンも魚とりも問題だけれどその決着がつかないと始まらないということでは本末転倒というほかない総会でした。報告事項と承認事項・決定事項に議論が集中する会議運営へ工夫する課題が残りました。

●夏原グラント事業報告書を受理 来年度の事業報告はもう少し詳しく書いてと注文がつく。夏原グラントの交付金によって薪割機の購入が実現しました。そして事業報告では里山農園で最も主力地の1号地2号地に覆いかぶさるようになっていたコナラやクヌギの除去がされ、安心して農作業が行えるようになりました。ここの説明が不足しているとのことで次年度の報告ではしっかり詳しく記載せよと指摘を受けました。

●桜の開花が特に早く 3 月末から 4 月初旬には雨がなく美しい景色を長く楽しめました。大変な気候の変化となりました。気温の変化は 4 月下旬には真夏日が連続することになりました。この変化で、4 月にはめったに見られないレンリソウの開花を確認されました。また里山農園では例年ササユリの中で最も遅くから芽を出してくるものが早くも芽を出しました。周囲にはキンランも開花していることが判明しました。いずれも 2 週間も早く発芽して大きく成長しているところや開花が確認されるということは、今年は異常というのか大変化が起きているようです。まさに地球温暖化の影響ではないでしょうか。

●ボトムアップ方式の個別専門会議に期待高まる 総会で指摘された準備不足解消と安全面の強化等の課題が指摘されましたので、各事業や取組みについて深い議論を行って、会員減少に歯止めをかけること、活動資金の獲得への工夫を含めて、原点に戻った企画原案の練り上げに期待するものです。事務局によるトップダウンから更に多くの意見を集約するボトムアップ方式への取り組みを進めましょう

●レンリソウの除草作業 5 月 5 日 15 時～17 時里山の会 5 月 3 日 G レンジャー 17 時～18 時に実施 近畿地方で情報が無くなって 42 年が経過して、絶滅とされていた 2007 年 5 月 20 日故鈴木由紀恵さんが木津川左岸でアカツメクサに交じって咲く少し色の違った花を見つけました。これがレンリソウだったのです。絶滅していたものがよみがえったのです。のちに京都府レッドデータブックでは絶滅寸前種に改められました。発見されたとき、草刈業者が除草作業で刈り飛ばし焼却処分まで行って、NHK テレビで全国に報道されるなど大きなアクシデントが発生しました。その後カスミサンショウウオの発見もあって、京都府では絶滅の恐れのある生き物 25 種が指定され、里山の会では桜谷先生や光田先生のご指導を受けながら三種(カスミサンショウウオ・レンリソウ・フナバラソウ)を保全管理する団体として登録されました。こうした経過があって、レンリソウの生育地の保全に努力をしてきました。一昨年からレンリソウの周囲のカラシナ拔草を実施、昨年にはアカツメクサが大繁茂、今年もその傾向が見られます。そこで、徹底的に花を摘み取って種を残さない対策を行います。多くの皆さんのご協力をお願いいたします。本日 3 日は大学生の皆さんが摘み取ってくれます。何しろ広大な面積ですので 5 日里山の会が第 2 弾として摘み取りを行います。いずれもご集合は玉水橋東詰め木津川左岸です。ご参加をお待ちしています。

●農園部会だより 畑地が広がる私達の里山農園です。昔は田んぼでお米を作っていました。一家総出で田植えの頃は一休みしているとササユリの香りが匂ってきていました。夏野菜の植え付けを 5 月 12 日(土) 9 時 30 分から行います。農園だよりで農園の様子と季節の変化をお知らせします。里山農園も多くの皆さんの努力で見違えるようになりました。キュウリ、トマト、ピーマン、カボチャ、万願寺トウガラシ他を、1 号地、2 号地に植え付けします。竹田からお越しの石川さん一家も参加されます。皆さんお越しください。お待ちしております。里山農園の自然を楽しみましょう。